

2023年度 ファミリーウォーキング③

「灘の酒蔵巡り」

約 7km(一般向き)

11月5日(日)

午前9時30集合・出発



集合場所: JR 灘駅 (駅北側広場)

岩屋公園 ⇒ 西求女塚古墳 (求女塚西公園) ⇒ 沢の鶴資料館 ⇒ 西郷酒蔵の道 ⇒

灘浜ガーデン・バーデン ⇒ 菊正宗酒造記念館 ⇒ 住吉川河川敷遊歩道

⇒ 阪神・魚崎駅 (ゴール)

昼食休憩はありません

※ ゴール時間: 12時30分頃

(リーダー: 山下奉晃)

次回の例会の
集合時間は
午前9時です

本日のファミリーウォーキングについては、現在、新型コロナウイルス感染症が終息していない状況であり、出発式(準備運動含む)は行いませんが、「ウォーキング中の留意点」などを守り、ウォーキングを楽しんでいただきますようお願いいたします。



ホームページ



JR 灘駅北側広場 (スタート)

岩屋公園

西郷酒蔵の道

左側通行

右側通行

住吉川河川敷遊歩道を歩く

JR 灘駅

西求女塚古墳

味泥交差点

沢の鶴資料館

灘浜ガーデン・バーデン

御影塚町3交差点

第二工区交差点

御旅公園

菊正宗酒造記念館

阪神/魚崎駅 (ゴール)

国道2号線

階段を上がる

国道43号線

☉ コンビニ

約1000m



ウォーキングマナー五ヶ条

1. やあ!おはよう 明るい挨拶 さわやかに
2. 信号で、あわてず、あせらず、待つ余裕
3. ひろがるな! 参加者だけの道じゃない
4. 自分のゴミ、自分の責任持ち帰り
5. 歩かせて、いただく土地に感謝して...

免責事項

事故には各自で十分に気をつけて下さい。当協会では応急処置及び受付時に加入した傷害保険以外の責には応じかねます。



歩行時の緊急時の連絡先
090-1961-9730
(公財) 神戸市スポーツ協会
神戸ウォーキング協会
神戸市中央区吾妻通 4-1-6
神戸市生涯学習支援センター内
Tel&Fax 078-251-0114

～神戸市文化スポーツ局文化財課による歴史解説～

にしもとめづかこふん
＜西求女塚古墳＞ ～悲恋伝説と卑弥呼の鏡～

西求女塚古墳は東灘区にある処女塚古墳（おとめづかこふん）と東求女塚古墳（ひがしもとめづかこふん）とともに、古くは万葉集にも詠われた悲恋伝説で有名な神戸市内で最も古い古墳です。

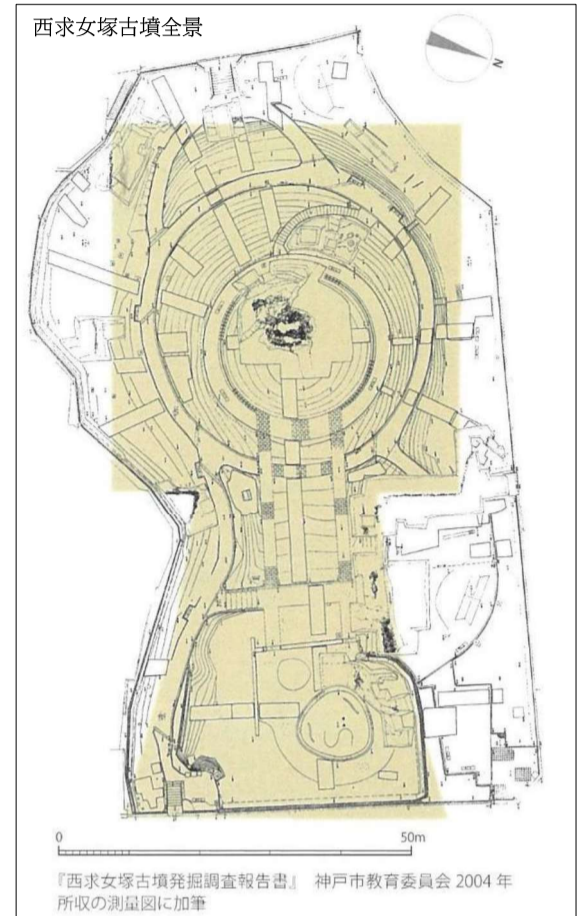
その伝説とは……。

「昔この辺りに大変美しい娘が住んでいました。その女性に多くの若者が求婚しましたが、その中で特に今の大阪辺りから来た若者と、一人の地元の若者が大変素晴らしい男性でした。娘はそのどちらとも決めかねて、悩んだ末、自ら海に身を投げてしまいました。それを知った二人の若者も後を追って海に身を投げてしまいました。人々はこの若者たちの死を悲しんで、真ん中に娘の墓を、それを挟んで両側に2人の若者の墓を造りました。」

しかし実際は、これらの古墳は造られた時期が若干異なり、3世紀中ごろから4世紀中ごろの約100年間の間に順次造られた、当時この地域を治めていた豪族の墓と考えられます。

西求女塚古墳で1993年に行われた発掘調査では1596年に起こった「慶長の伏見地震」によって墳丘が地滑りを起こしたため倒壊した竪穴石室が見つかり、その中から12面もの中国製の青銅鏡をはじめ大量の副葬品が出土しました。青銅鏡の中には邪馬台国の女王卑弥呼が中国魏の皇帝から送られた鏡ともいわれている「三角縁神獣鏡（さんかくぶちしんじゅうきょう）」が7面も含まれていました。

現在公園になっている西求女古墳は国の史跡に、青銅鏡をはじめとする出土品は国の重要文化財に指定されています。



西求女塚古墳 HP
(埋蔵文化財センターHP)

＜灘五郷の酒造り＞

六甲山系南麓地域の日本酒作りが盛んな地域は「灘五郷」と呼ばれています。東から西宮市の今津郷・西宮郷、神戸市東灘区魚崎郷・御影郷・灘区西郷で、東西12kmに及ぶ日本最大の清酒酒造地帯です。その酒は「灘の生一本」で知られ、現在我が国で売られている清酒の4本に1本がこの灘五郷の酒です。

伊丹で始まった清酒造りを江戸時代中期以降に導入した西宮・灘の酒蔵は、背後にそびえる六甲山から多くの恵みを得、下り酒(上方から江戸方面に運ばれた酒)産地として台頭します。六甲山の東南麓の花崗岩地帯を通り、西宮郷で汲み上げられる伏流水「宮水」は、酒造りに非常に適した名水で、淡麗な「灘の男酒」を生み出しました。最良の酒米として知られる「山田錦」は、昭和11年(1936)、兵庫県立農業試験場で誕生しました。現在、山田錦は気候・土壌が栽培に適した六甲山の北側に広がる水田地帯を中心に育てられています。酒米の精白には、六甲山を流れ下る川の急流を利用した大規模な水車を用いました。人力足踏臼の精米に比べ、高い精白度の酒米を大量に得られるため、質・量ともに安定した清酒の生産が可能になりました。

灘五郷の伝統的な酒蔵は、六甲山から吹き降ろす冬の季節風「六甲おろし」を背に受けて建つ前蔵と大蔵からなる「重ね蔵」です。重ね蔵は、外気の影響を受けにくい一方、蔵の配置と北面の窓の工夫により、六甲おろしを利用した効果的な冷却・換気を可能にしました。県指定重要有形民俗文化財の沢の鶴大石蔵にその姿を見ることができます。また、大桶や酒樽、キツネやサルなどと名づけられた酒造り用具は、酒造工程に適った高い完成度を誇ります。国の重要有形民俗文化財に指定されている御影郷・菊正宗の「灘の酒造用具」など酒造り用具の数々は、丹波杜氏の技を形あるものとして私たちに見せてくれます。

この灘五郷の日本酒造りは伊丹の日本酒造りとともに『「伊丹諸白」と「灘の生一本」』として令和2年に日本遺産に認定され、様々な公開・活用事業が展開されています。



日本遺産
「伊丹諸白」と「灘の生一本」HP